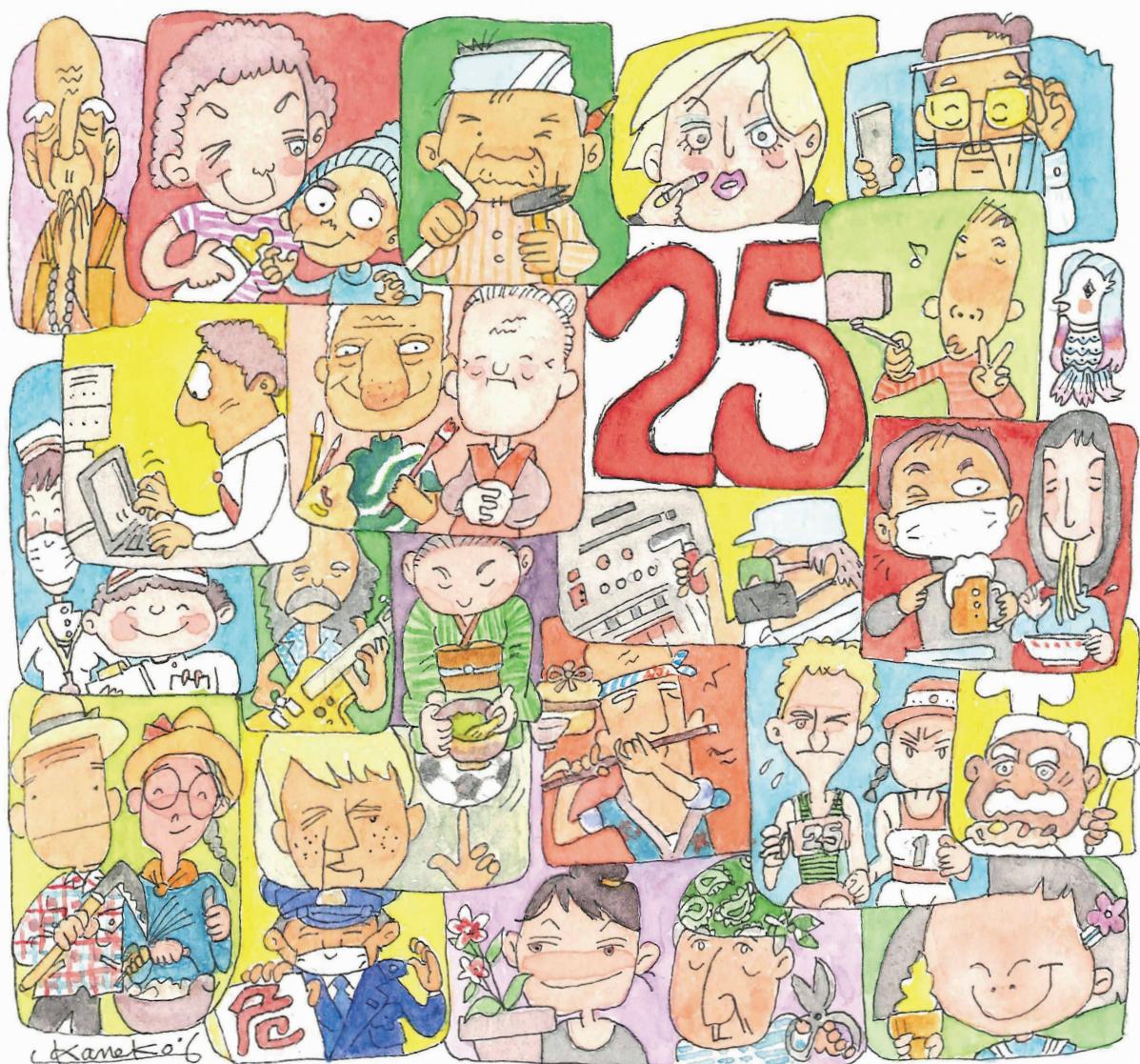


港北区の「活動」をつなぐ情報誌

楽らく遊ゆう学がく

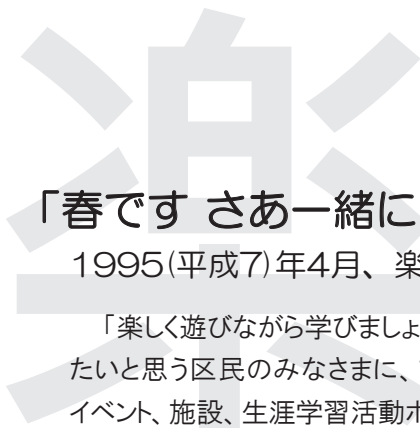
25周年
記念号

【編集・発行】港北区区民活動支援センター



25th ANNIVERSARY

楽しく遊びながら学びましょう

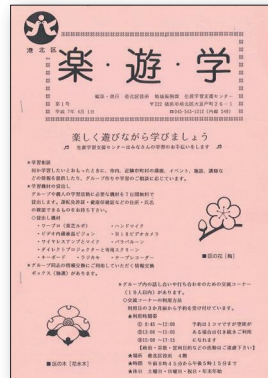


1995年

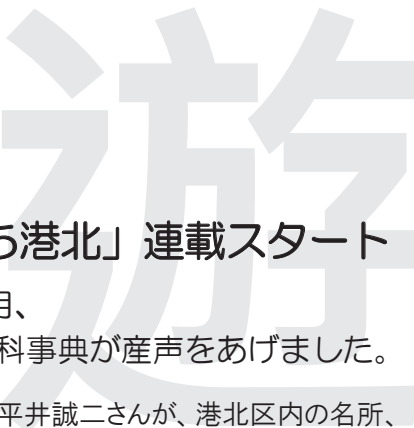
「春です さあ一緒に 楽・遊・学」

1995(平成7)年4月、楽・遊・学が誕生しました。

「楽しく遊びながら学びましょう」を合言葉に、何かを学習したいと思う区民のみなさまに、市内や近隣市町村の講座やイベント、施設、生涯学習活動ボランティア、講師などの情報を発信する「生涯学習情報紙」として、手軽に手にとり、役立てていただくことを目標に創刊しました。記念すべき第1号の表紙は、始まりの季節にふさわしい「桜色」。当時は、生涯学習支援センターが編集・発行をしていました。



1998(平成10)年
横浜国際総合競技場開設



1999年

シリーズ「わがまち港北」連載スタート

1999(平成11)年1月、
港北発見の百科事典が産声をあげました。

大倉精神文化研究所の平井誠二さんが、港北区内の名所、史跡、伝承、文化など、毎回異なるテーマを取材、寄稿した、シリーズ「わがまち港北」の連載が開始。

新たな読み物が加わり、楽・遊・学の知名度もアップ！区民に親しまれる名物連載コーナーとして人気を博します。



1999(平成11)年
港北区制60周年

2002(平成14)年
2002FIFAワールドカップ™
サッカー日韓共同開催



2009年

港北区区民活動支援センター誕生

2009(平成21)年3月、
センターがリニューアルオープンしました。

港北区生涯学習センターがオープンして14年。生涯学習や市民活動がますます発展するよう、会議室や印刷機を備え、地域貢献活動のための相談・情報提供機能を持った「港北区区民活動支援センター」としてリニューアルオープン！活動を支援するセンターとして新たな一歩を踏み出しました。



2009(平成21)年
横浜開港150周年
港北区制70周年
港北区ミズキー誕生



©港北区ミズキー

楽遊学全面リニューアル！

2018(平成30)年5月、
港北区の「活動」をつなぐ情報誌として生まれかわりました。

講座やイベント情報を中心とした情報紙から、区内で活動する市民活動団体にフォーカスし、活動をつなぎ、広げることを目的とした情報誌として生まれ変わりました。

楽遊学ならではの視点で、グループ・団体の活動を取材し情報をお届けできるよう、隔月発行となりました。

また、誌面デザインも刷新。表紙・裏表紙がカラーになりました。(第284号からはフルカラー化されています。)

2018

年

2019(平成31)年
港北区制80周年

創刊25周年を迎えました！

2020(令和2)年4月、
楽遊学は発行から25周年を迎えました。

2020

年

今日まで楽遊学に関わってくださった一人一人との出会いに感謝して、これからも様々な「活動」をお伝えしていきます。

Special Thanks これまで取材にご協力いただいたみなさんです。(敬称略、順不同)

大倉精神文化研究所/屋上緑化グリーンサポーター/大倉山おへそ/大倉山ミエル/鶴見川舟運復活プロジェクト/松の川遊歩道(緑道)の会/大倉山ドキュメンタリー映画祭実行委員会/篠原城と緑を守る会/小机城址市民の森愛護会/NPO法人日本の竹ファンクラブ/小机城のあるまちを愛する会(城まち会)/たまてばこ/菊名桜山公園愛護会(桜の森を守る会)/菊名池公園愛護会/まめまめかれん/とりどり文庫/港北ボランティアガイド/鯛ヶ崎公園プレイパーク/わがまち港北映像プロジェクト/港北桃まつり実行委員会/綱島桜まつり実行委員会/大倉山夢まちづくり実行委員会/小机城址まつり実行委員会/下田ふれあい食堂/まめどspace結/大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会/新田地区センター/港北区社会福祉協議会障がい者セーフティネット分科会/NPO法人フォーラム・アソシエ/綱島地区センター/綱島地区センターガーデニングクラブ/ツナコメ/アスリートシェアバリュー/港北公会堂/コミバス市民の会/横浜ラポール/ふだん着 絆/篠原地区センター/コーヒーフレンドしのはら/親と子のつどいの広場ぼっけ/横浜・港北ユニカール倶楽部/港北区民俗芸能保存会/日吉地区センター/港北ふるさとテレビ局/横浜ベビーヒップホップスタジオ/熊野の森もろおかスタイル/Kiの会/港北区民交響楽団/♥Net/NPO法人ポケット/その他多数



楽遊学
バックナンバー

そしてこれからも、港北区の「活動」をつないで広げる情報誌でありたい。
そんな思いで、区内で活動しているみなさんにお話を伺いました。

大倉山記念館前で 毎朝続くラジオ体操



ランドマークともいえる大倉山公園・大倉山記念館前で20年以上前から、毎朝ラジオ体操が続いています。正面のひろばにできる大きな輪に入って体操する人、草地の奥の方でひっそりとする人、体操の前後にウォーキングを組み合わせている人、時間まで詩を吟じている人。体操の後にも、絶景ポイントから富士山と丹沢の山並を眺めたり、四季折々の花を愛でたり、顔を合わせるうちに親しくなった仲間とのおしゃべりを楽しむなど、それぞれの時間を大切に過ごしています。この1年で新しい顔ぶれも増え、総勢40～50人を数えます。初期メンバーには90代も！

ラジオは各自携帯を使用、名簿も会費もリーダーもなし。梢の間から降り注ぐ光と恵みを共有しながら一人ひとりの1日を始める、大人のソーシャルラジオ体操です。

毎年1月2日の体操の後には、お正月の歌を歌って皆で乾杯！

楽遊学を参加者に配ってくださり、ずっと愛読されています。

日程：元旦を除く毎日 6:30～6:40
場所：大倉山公園 大倉山記念館前
問合せ：なし

戦国時代の歴史を感じる 場所・人・もの 魅力あふれる“まち”小机

小机城のあるまちを愛する会
のみなさんとイベントちらし

小机城址が2017(平成29)年に、「続日本100名城」に選定されてから、日本中から注目を浴びるようになりました。見学に訪れる人が、「城郭がない。」「魅力が分からない。」という声もあり、もっと小机の魅力を発信していこうと「小机城のあるまちを愛する会」が発足されました。20数名で立ち上がった全体会を次のように3つの部会に分けてそれぞれ活動しています。

☆まちおこし部会：御城印を作って販売したり、商店街の活性化を図っています。

☆イベント部会：「小机城秋の陣」というお祭りを実施して“まち”を盛り上げています。



☆歴史部会：地域の文化遺産を調べたり見学会を実施しています。第4日曜日には城の見学者で希望する方にはガイドもしています。

今年のテーマは「地域の人に、地元小机の魅力を発信」ということで、小机に住んでいる人に愛着や誇りをもってもらうために、もっと見える形にしようと、FacebookやYouTubeに載せています。今後ますます“小机”は盛り上がっていきます。

小机城しろまちチャンネル「ヨコハマ城郷さんぽ」ナビゲーターのおよねちゃんです。見てね～



◆小机城のあるまちを愛する会

問合せ：木村 090-2738-0278

<https://www.facebook.com/kozukuejou/>



裁縫好きが集まって 子どもの布おもちゃを制作

ちくちくcaféのみなさんと作品



2016(平成28)年に、区役所主催の生涯学級からグループができました。まちの先生でもあるメンバーをはじめ、お裁縫好きや子育て中のお母さんが集まって、親子が遊ぶ大切なひと時に、安全でぬくもりのある手作り布おもちゃを届けるとともに、布おもちゃの良さを伝えていきたいと思って活動を続けています。

作品は、アイデアを元に型紙から起こすことも。また最近は感染症対策として、洗えるタイプへの改造も試みています。

出来上がった作品は、子育て支援施設(どろっぶサテライト等)へ寄贈させていただいたり、らくらく市など地域でのイベント(今年はなし)の際に、出展・販売したりして、地域交流にもつなげています。

ゆるやかな活動は子連れもOK! 活動に興味がある方、また作品に興味がある方も、お気軽にお問い合わせください。

◆ちくちくcafé

日程:月2回 主に火曜日午前中
場所:区役所4F 区民活動支援センター会議室
問合せ:045-540-2246(区民活動支援センター)

活動40周年 視覚障害者の為の 音声訳ボランティア

録音風景と交流会



1981(昭和56)年国際障害者年に発足しました。視覚障害者の目の代わりになるよう、身近な生活情報を声と録音で届けています。

具体的には、地域の情報を盛り込んだ月刊CD雑誌(「港北声の散歩道」)発行、選挙公報の録音CD作成、横浜市立盲特別支援学校での対面朗読のほか、個人から依頼のリーディングサービスも行っています。

また毎年視覚障害者との1日交流会として(今年はなし)、これまでに一緒に和菓子作りや横浜市民

防災センターへのお出かけ等を実施しました。

現在40代~80代の約30人で活動しています。たまたま全員女性ですが、性別は問いません! 特に音声訳初級者講習を受講されている方は、活躍の場が待っていますよ!

◆港北録音グループ

日程:主に火曜日
場所:主に港北区福祉保健活動拠点
問合せ:045-540-2246(区民活動支援センター)

子どもの本を通して 子どもの心を考える

港北文庫のつどいのみなさん

「港北文庫のつどい」は、毎年秋に絵本・児童文学・科学・編集や出版関係の方々3～4名を講師にお迎えし、連続講演会を行っています。

横浜市に図書館が野毛に1館しかなかった頃、港北区内では、家庭文庫、地域文庫、自治会、町内会、PTA、読書サークルなど28団体が団体貸出を受け文庫を開いていました。その中で子どもの本を主体とする6文庫が発起人となり、1974(昭和52)年に「港北文庫のつどい」が誕生。子どもの本に関わる講演会をはじめました。

「子どもたちに良い本と出合っしてほしい」と共通の



港北文庫のつどい

～子どもの本を通して子どもの心を考える～

横浜で絵本や児童文学・読み聞かせなどについての講演会を開催しています



願いを持ち集まった若いお母さんたちが、図書館設置の署名運動を行い、1980(昭和55)年に港北図書館が開館しました。子育て中のお母さんたちが講演会に参加できるよう、お子さんを預かったのが、日本における保育付き講演会の先駆けとなりました。

読書活動をはじめ今年で47年になります。

◆港北文庫のつどい

定例会：毎月第2月曜日10:00～12:00

場所：港北図書館2階会議室

問合せ：森島 045-546-9369



これまでの講演会

年を重ねても 仲間と共に楽しい毎日

つなしま会運営委員のみなさん

定年を迎えた方や、子育てに一段落ついた方、これから何かを始めようかしら？と思った方々が、約30年ほど前に自然発生的に集まって、それぞれの趣味や学習の活動を始めました。折り紙・俳句・水彩画・書道・落語鑑賞・パソコン・健康麻雀・ピアノ・混声コーラス・ハーモニカ・カラオケ・太極拳・ボウリング・民謡踊り・ウォーキングの会も2つあり、年に一度、港北公会堂で、それぞれの活動グループの発表会(ふれあいフェスタ)を開催しています(今年度は中止)。

現在では、会員数113名が20のグループで活動



しています。また、つなしま会全体でも、親睦会や施設見学、映画鑑賞なども実施しています。これだけたくさんグループを抱えているので、各グループの連携や活動の様子を会員の皆さんに知っていただくために、自主的に運営委員を募って、月1回『つなしま会だより』を作り郵送しています。

好きなことを、気の合う人と一緒に、学んだり、話し合ったり、笑ったりしていると、イキイキ、わくわく、アンチエイジング！とても若々しくなります。

◆生涯現役つなしま会

日程や活動場所は、活動内容によっていろいろ

問合せ：廣江 045-546-9353



大倉精神文化研究所 理事長

平井 誠二 さん

シリーズ「わがまち港北」著者

岡山県倉敷市生まれの64歳。2020年(令和2年)6月より、公益財団法人大倉精神文化研究所理事長(研究所長と図書館長を兼任)。専門は歴史学(日本史)、港北地域の歴史や文化を研究している。

シリーズ「わがまち港北」は、『楽・遊・学』第46号、1999(平成11)年1月発行から、『楽・遊・学』第277号、2018(平成30)年4月発行まで毎月連載していました。

楽しくなくっちゃ続かない！

19年4ヶ月もの連載を振り返り、シリーズ「わがまち港北」の誕生から、新刊『わがまち港北 3』の発行まで、大倉精神文化研究所の平井誠二さんにお話をうかがいました。

はじめは、当時研究員だった平井さんが、所属する大倉精神文化研究所主催の講座やイベント案内を区役所に持ち込み、チラシの配架や『楽・遊・学』への掲載を依頼するという一利用者としてのお付き合いからでした。

平井さんの専門は「歴史」。どこで聞きつけたのか、ある日「港北区の歴史を書いてみませんか」という打診を受けます。区役所には、分厚くて重たい区史はあれど、難しすぎて誰も手に取ろうとはしない。身近な題材をテーマに、短くてわかりやすい読み物があれば、多くの人たちが港北区の歴史や文化に興味を持って読んでもくれるかもしれないとの提案に、港北区のことなど全く何も知らなかった平井さんは、研究員が協力すればなんとかなるだろうという安易な気持ちで引き受けたそうです。

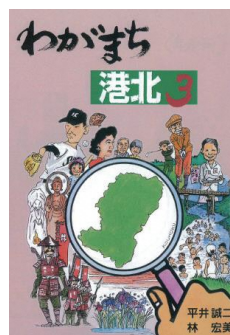
ところが、研究所の研究活動とはかけ離れた内容に、誰も筆を執ろうとはせず、結局、平井さん自らが担当することに。図書館に通って文献を調べ、実際に現地に足を運び、地域の人々に会って話を聞くフィールドワークが始まりました。集めた史料・資料や見聞きしたことをまとめ、締切に追われながら原稿を執筆する日々。港北区を深掘りしていくうちに、その魅力にとりつかれ、書きたいテーマは無限に広がり、多くの引き出しができたと言います。平井さんの文章は、誰にでも読みやすくわかりやすい上、取り上げられるニッチなテーマは、読者の興味関心を引き、いつしかシリーズ「わがまち港北」は、『楽・遊・学』の看板読みものとなりました。

読者からの反響は想像以上で、町を歩けば声がかかり、〇〇について調べてほしい、と言った手紙が届き、地域との交流が生まれ、それが励みとなったそうです。

区民に愛されたシリーズ「わがまち港北」は、港北区13地区の成り立ちをまとめた「地域の成り立ち」シリーズを大成し、2018年4月、惜しまれつつも連載を終えました。「まだまだ、書きたいことはたくさんあるんだけどね」そう言って笑う平井さんを目の前に、シリーズ「わがまち港北」は、平井さんの止むことのない探求心と情熱から生み出された「港北区の宝物」であると確信しました。

そしてこの秋、待ちに待った『わがまち港北 3』(第181回～第232回收録)が刊行されます。「地域の成り立ち」を軸に、それぞれの地域に関わりのある内容が盛りだくさんです。長年港北区に暮らす方も、新しく引っ越してきた方も、自分の住む地域を知るためになくてはならない一冊です。便利な年表も付いています。

2009(平成21)年と2014(平成26)年に刊行された『わがまち港北』(第1回～第120回收録)と『わがまち港北 2』(第121回～第180回收録)と合わせて全三冊を読めば、港北区がもっとも好きになるに違いありません。



一家に全三冊！
わがまち港北

新刊

『わがまち港北 3』

平井 誠二

林 宏美

定価：1,500円+税

問合せ：一般社団法人地域インターネット新聞社
<https://wagamachi-kohoku.jimdofree.com/>



区民活動支援センターがお手伝いします！

「何かはじめてみようかな」と思い立ったが吉日、区民活動支援センターにいらっしやいませんか。
区民活動支援センターでは、これから活動を始める方、すでに活動している方を全力でサポートします。

何かをはじめたい方へのサポート

「何かをはじめたいけど、何をしたいのかわからない」
「地域づくりに関わりたい」、「ボランティアをやりたい」
「仲間を作りたい」、「グループを立ち上げたい」、「助成金を申請したい」など、お悩みは十人十色。お気軽にご相談ください。「子育て」「ボランティア」「区内情報」などジャンルごとに分類されたチラシも自由にご覧いただけます。



地域活動やサークル活動をしている方へのサポート

講師探しのお手伝い・コーディネート

「港北区まちな先生の先生」は、専門知識や特技を持つボランティア。美術、お花、料理、子育て、スポーツ、音楽、パソコン、語学など、多岐にわたっています。



メンバー募集や活動のPRをお手伝い

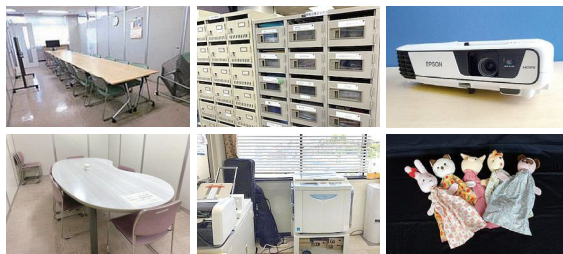
「グループ・団体ガイド」では、区内で活動するグループ・団体を紹介しています。趣味のサークルを見つけたり、活動団体のPRに活用していただけます。



印刷機のご利用/機材・布おもちゃの貸出/会議室・交流コーナーの貸出/情報交換ボックスのご利用

地域活動やサークル活動で使う資料やチラシを印刷したり、講座やイベントを行う際に機材や布おもちゃを使用することができます。また、打合せや会議等にお使いいただける会議室や交流コーナーもあります。目的に応じてご利用ください。

※ご利用には事前に登録が必要です。詳しくはお問い合わせください。



港北区区民活動支援センター

(港北区役所4階48番窓口)

住所：〒222-0032 港北区大豆戸町26-1

TEL/FAX：540-2246

Eメール：ko-center@city.yokohama.jp

開館時間：月～金 8:45～17:00

休館日：土・日曜、祝休日、年末年始

